

# 第 51 期 第2四半期報告書

## Fuji Pharma IR Report

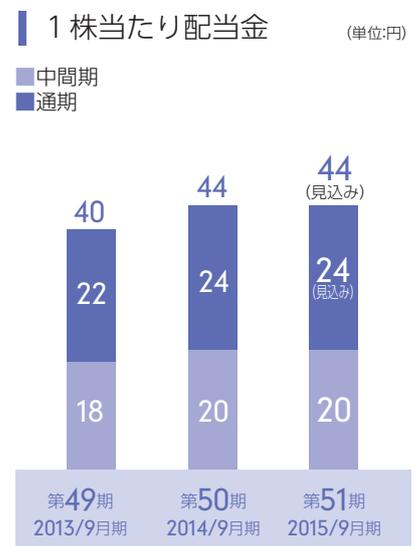
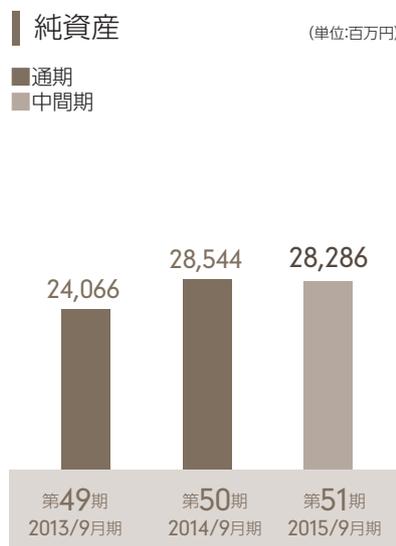
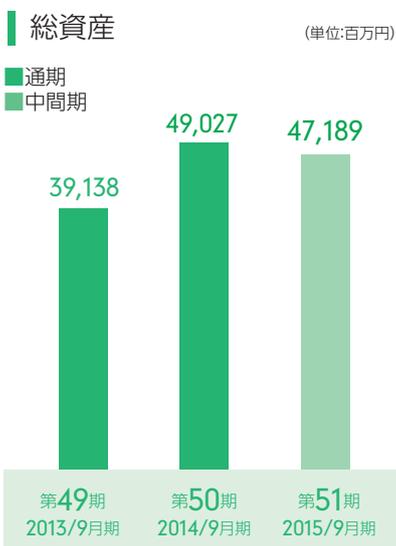
2014年10月1日から2015年3月31日まで



株主・投資家の皆様へ



主力製品を中心に売上高は比較的順調に推移しましたが、原材料の調達価格の上昇や減価償却費の増加による売上原価の上昇、研究開発費の増加や販売体制強化による販管費の増加により、減益となりました。





当社は今年4月に設立50周年を迎えました。  
新たな半世紀がスタートするにあたり、「わたしたち自身の成長」、「人々の健やかな生活に貢献する」という、経営理念の更なる実現に向けてしっかりと努めてまいります。

代表取締役  
社長執行役員 **今井博文**

## 2015年4月に設立50周年を迎えましたが、これまでのあゆみについてお答え下さい。

当社は1954年4月に、故今井精一が東京都豊島区において個人商店「富士薬品商会」を創業、医薬品の販売を開始いたしました。1959年4月に法人組織「有限会社富士製薬工業」を設立、これに併せて富山県中新川郡水橋町に製剤工場を新設し、医療用医薬品の製造を開始いたしました。その後1965年4月に株式会社に組織変更し、富士製薬工業株式会社を設立いたしました。2011年7月、東京証券取引所市場第二部上場、翌2012年7月には、東京証券取引所市場第一部に上場しました。同年10月にはタイ最大の医薬品製造受託企業であるOLIC社を子会社化し、富士製薬工業グループの一員といたしました。2014年3月には、三井物産株式会社と資本業務提携契約を締結し、グローバルなネットワークに強みを持つ同社との緊密な連携を一層推進することにより、シナジー効果を更に強め、当社グループの経営力を強化しております。

※当社50年のあゆみについては、本報告書の5ページにございますトピックスも併せてご覧下さい。

## 新中期経営計画の「Fuji Pharma ブランディング」についてお教え下さい。

2015年9月期を初年度とする5ヶ年の中期経営計画では、「Fuji Pharma ブランディング」をテーマとし、基本方針に「一人ひとりと会社と製品のブランド戦略を強力に推進」、「ブランド薬<sup>\*1</sup>を中心とする新たなステージと体制を構築」、「グローバルなFuji Pharmaグループの事業展開を実現」の3つを掲げています。

独自で、一流の高付加価値な医薬品ビジネスをグローバルな観点から取り組み、国内外の医療に携わる人々や健康を願う人々をはじめ、全てのステークホルダーと私たちFuji Pharmaグループへの大きな信頼、感動、伝説、共感と親しみを築き上げ、経営理念である「成長」と「貢献」の更なる実現を果たしてまいりたいと考えています。

## 「Fuji Pharma ブランディング」のテーマである「成長戦略」、「数値目標」、「成長投資」について具体的にお聞かせ下さい。

当社では新薬や長期収載品(承継品)、バイオシミラー<sup>\*2</sup>をブランド薬<sup>\*1</sup>として位置付け、戦略領域におけるブランド薬<sup>\*1</sup>、ジェネリック医薬品及び受託製造(CMO事業)からなる相乗発展モデルの構築をこの中期における成長戦略としています。

戦略領域につきましては、女性医療領域では、女性ホルモン剤の新剤形医薬品や新投与経路の医薬品、性腺刺激ホルモン剤の新薬

開発を手掛けており、急性期医療領域では、非イオン性造影剤オプトレイ<sup>®</sup>注の効能追加やそれに続く新たなブランド造影剤の販売開始に向け取り組んでいます。

課題であるボトムライン(利益)の引き上げについては、三井物産株式会社との連携強化による原材料調達機能の強化、ブランド薬<sup>\*1</sup>にシフトした製品構成・領域構成への変更、生産管理体制の再構築、タイ受託子会社OLIC社への製造移管、及びCRO(医薬品開発業務受託機関)などとの戦略的なパートナーリングによる開発成功確度の向上と研究開発費の圧縮に努めます。販売管理費につきましては、全社機能のBPRを徹底してまいります。

それらの取り組みを通じて2019年9月期には営業利益率を16%に回帰することを目指しています。

OLIC社では、2017年以降、受託製造事業だけでなく、自社ブランド品の販売開始を計画しています。また、受託製造事業におきましても、2017年初頭に完工予定の新注射剤工場での製剤により国内外の大手製薬メーカーとの取引を拡大し、日本、東南アジアをはじめ全世界に供給してまいります。

5ヶ年の中期経営計画最終年度である2019年9月期には、売上高425億円の達成と営業利益率16%へ回帰することを目指して掲げており、達成に向けしっかり取り組んでまいります。

## 市場環境と当期上半期そして通期見通しについてお教え下さい。

後発医薬品ロードマップへの対応を通じた安定供給体制・品質・情報提供の更なる向上による業界プレゼンスの向上、並びに、後発医薬品の新薬価制度(ブルーピング制度)における付加価値の高い製剤(注射剤等)への取り組みにより、さらに同業種間の選別が進むと見られます。一方、内服薬など競合品数の多い製剤では低価格販売戦略が可能な企業が有利となるなど、開発・営業両面での製品戦略がより重要になってきております。斯かる中、上半期業績は、売上155億円と対前年同期比で9%増加しておりますが、営業利益で減益となり14億4千万円(7.7%減)と厳しい環境に置かれております。通期の連結売上高は、公表値通りブランド薬<sup>\*1</sup>やバイオシミラー<sup>\*2</sup>の売上増加により売上高320億円、経常利益35億円、当期純利益22億円の達成を目指していきます。

引き続き戦略的に事業投資を拡大し、投資価値指標の改善を図り、達成に向けて取り組んでまいりますので、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 用語解説

※1 **ブランド薬**:当社におけるブランド薬は、「新薬」、「他社から承継するブランドジェネリック」、「バイオシミラー」を指しております。

※2 **バイオシミラー**:国内で既に承認されたバイオテクノロジー応用医薬品(先行バイオ医薬品)と同等・同質の品質及び安全性、有効性を有するものとして、異なる製造販売業者により開発される医薬品と定義されております。

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期 2015年3月31日現在	前 期 2014年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	31,293	33,168
現金及び預金	6,652	8,173
受取手形及び売掛金	11,542	11,623
たな卸資産	11,596	9,153
その他	1,502	4,217
固定資産	15,896	15,858
有形固定資産	10,760	10,465
無形固定資産	4,566	4,627
投資その他の資産	569	765
<b>POINT 1</b> 資産合計	47,189	49,027
(負債の部)		
流動負債	12,109	12,718
固定負債	6,793	7,764
<b>POINT 2</b> 負債合計	18,903	20,482
(純資産の部)		
株主資本	27,066	27,834
資本金	3,799	3,799
資本剰余金	5,023	5,023
利益剰余金	19,747	19,012
自己株式	△ 1,504	△ 0
その他の包括利益累計額	1,218	708
少数株主持分	1	1
<b>POINT 3</b> 純資産合計	28,286	28,544
負債純資産合計	47,189	49,027

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期 累計期間 2014年10月1日から 2015年3月31日まで	前第2四半期 累計期間 2013年10月1日から 2014年3月31日まで
売上高	15,460	14,178
売上原価	9,039	8,126
売上総利益	6,421	6,051
販売費及び一般管理費	4,981	4,490
営業利益	1,440	1,561
営業外収益	66	93
営業外費用	30	28
経常利益	1,476	1,625
特別利益	46	76
特別損失	37	43
税金等調整前四半期純利益	1,485	1,658
法人税、住民税及び事業税	340	489
法人税等調整額	274	166
少数株主損益調整前四半期純利益	871	1,002
少数株主利益又は少数株主損益(△)	0	△ 0
四半期純利益	871	1,002

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期 2014年10月1日から 2015年3月31日まで	前第2四半期 2013年10月1日から 2014年3月31日まで
<b>POINT 4</b> 営業活動によるキャッシュ・フロー	154	1,573
<b>POINT 5</b> 投資活動によるキャッシュ・フロー	1,739	△ 1,211
<b>POINT 6</b> 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,533	△ 771
現金及び現金同等物に係る換算差額	118	16
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,521	△ 392
現金及び現金同等物の期首残高	8,680	6,521
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,158	6,128

財務諸表の解説

**POINT 1** 資産について

今後の売上増加に備えるための製造数量確保のため原材料を中心にたな卸資産が増加している一方、第5製剤棟第Ⅱ期工事の設備のリースバックの入金により未収入金が増加、自己株式の取得や借入金の返済による現預金の減少により、総資産は減少しております。

**POINT 2** 負債について

借入金の返済や退職給付に関する会計基準等の変更により負債が減少しております。

**POINT 3** 純資産について

2月に実施した自己株式の取得や役員向け株式交付信託により自己株式が増加したため、純資産が減少しております。自己資本比率は前期末に比べて0.1ポイント増の59.9%となりました。

**POINT 4** 営業活動によるキャッシュ・フローについて

たな卸資産の増加が大きく営業活動によるキャッシュ・フローは1億5千7百万円の増加にとどまりました。

**POINT 5** 投資活動によるキャッシュ・フローについて

タイでの新注射剤工場建設に伴う設備資金の投資はありましたが、前期の9月に稼働を開始した第5製剤棟の第Ⅱ期工事の設備に関するリースバック取引が完了したため、投資活動によるキャッシュ・フローは17億3千9百万円の収入となりました。

**POINT 6** 財務活動によるキャッシュ・フローについて

自己株式の取得や借入金の返済等により財務活動によるキャッシュ・フローは35億3千3百万円の支出となりました。



OLIC (Thailand) Limited

## 新注射剤工場の建設が順調に進んでいます



昨年策定した5ヶ年の中期経営計画の大きな柱の一つである新注射剤工場の建設が予定通り着々と進んでいます。

OLIC社の既存敷地内の未使用の土地を活用し、注射剤製造棟と倉庫棟を新たに建設しています。2014年11月

に土地の整備を開始、2015年1月9日に起式を行い、2016年6月の建屋完成に向けて着実に建設が進んでいます。

建屋の建設と並行して今年後半から来年初めにかけて製薬用水設備や製剤製造設備等の機械の搬入も始まりますが、建屋が完成した後は個々の機械の試運転並びに間違いのない医薬品を作るための検証作業を一つひとつ積み重ね、タイ及び日本当局等による実地調査・承認手続き等を経て、実際に製品の製造を開始できるのは2017年4月頃になる見込みです。

新注射剤工場で製造するのは、バイアルといわれるガラス容器に充填した液体の注射剤であり、現在富山工場で製造している製品の一部を移管するべく新工場棟建設と並行して移管作業を進めています。新工場棟稼働後は名実ともに富士製薬工業の第2工場として日本市場向けに製品を供給してまいります。

また、新注射剤工場で製造する富士製薬工業製品をタイをはじめとする東南アジア諸国及びその他の地域で販売することも計画しており、候補国の選定、販売のパートナー探し等を富士製薬工業と共同で進めています。更に、新注射剤工場での余剰生産能力を活用し他の製薬メーカー様からの注射剤製造の受託ビジネスも拡大したいと考えています。

このように新注射剤工場の建設はFuji Pharmaグループにとってグローバルに展開するための布石となる大きなプロジェクトであり、気を緩めることなく早期立ち上げに向けて着実に進めてまいりますので、株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新注射剤工場イメージ図

### 2019年のあるべき姿

- 1 Sustainable Leading CMO in APAC**  
(アジア太平洋地域における製造受託のリーディングカンパニーを目指す)
- 2 Starting own brand business as a pharmaceutical company**  
(製薬企業として自社ブランド製品の販売を開始する)

### 実現のための施策

- A** 既存の製造受託事業のさらなる拡大
- B** 新注射剤工場の早期立ち上げ
- C** アジア太平洋地域での自社製品展開のためのマーケティング
- D** 人材開発と社員満足



HPもリニューアルしました。

▼アドレスはこちら

<http://www.olic-thailand.com/>

## Shareholders Voice

株主の皆様の『声』が私たちの原動力です。

前報告書でご協力をお願いいたしました、アンケートの集計結果についてご報告いたします。

ご回答いただきました306名の株主の皆様、ご協力誠にありがとうございました。当社では貴重なご意見として、今後の活動へ反映させるべく努めてまいりたいと思います。

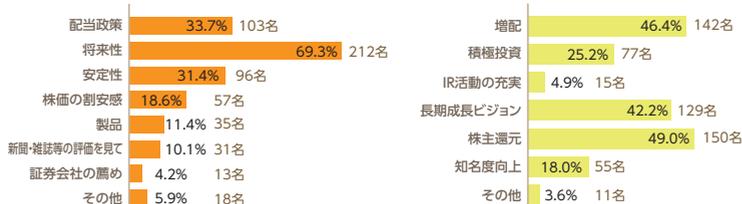
アンケートは定期的実施してまいりますので、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

### ■株主アンケート集計結果

アンケート配布3,195名/回答306名(回答率9.58%)

当社の株式を購入した理由についてお聞かせ下さい。(複数回答可)

当社に望まれることは何ですか？(複数回答可)



### 株主様からの「応援メッセージ」

ジェネリック薬の普及と御社の益々の発展を期待しています。

女性の強い味方という感じがします。期待しています。

人類の課題である「がん」の薬の研究開発に期待する所、大です。頑張ってください。

病気に悩んでいる人を少しでも救うようがんばってほしい。

海外での事業展開を拡大し業績の上がることを期待します。

企業価値向上を期待しております。

長期的成長の為に今後も研究開発を充実させて下さい。

当社は2015年4月に設立50周年を迎えました。  
主なあゆみについてご紹介いたします。

## 沿革 ～ 50年のあゆみ ～



※ 月経困難症:日常生活に支障をきたすほどの生理痛を生じる症状で、例えば生理がくると「痛みがひどく横たわってないと耐えられない」、「辛くて会社に行くことができない」などといった重い症状が、月経困難症の特徴です。臓器に病気があるために起こる器質性月経困難症とホルモンの影響で起こる機能性月経困難症があります。

## 50周年行事 ～ タイ研修 ～

設立50周年を記念して、グループ会社のOLIC社があるタイ王国で研修を兼ねた周年行事を行いました。

現地での周年行事は、OLIC社からも45名参加し、今井社長の次の50年に向けた想いを交えての挨拶で始まり、映像を用いて当社及びOLIC社のこれまでのあゆみを振り返りグループ全体での歴史を共有することができ、50周年にふさわしい行事となりました。

そして、当社社員のみならずOLIC社社員も含め、Fuji

Pharmaグループの一員であることを再確認すると共に両社がより強固に団結し、本中期経営計画の『Fuji Pharma ブランディング』をテーマとしたグローバル戦略の実現に向け、努めることを誓いました。

今期より新中期経営計画がスタートしておりますが、これからの5年間もFuji Pharmaグループとして高品質・適正価格の製品を安定的に供給し、世界の人々の健康に寄与してまいります。



## ホームページのご案内

当社のホームページでは、当社をよりご理解いただくため「バーチャル工場見学」や会社情報、最新のトピックス、業績報告など様々な情報を掲載しております。ぜひアクセスして下さい。



アドレスはこちら⇒ <http://www.fujii-pharma.jp/>

## 会社概要 | 2015年3月31日現在 |

**会社名** 富士製薬工業株式会社 (Fuji Pharma Co., Ltd.)  
**所在地** 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7  
**設立** 1965年4月  
**資本金** 37億9,910万円  
**社員数** 連結：1,470名  
 (富士製薬：683名、OLIC社：787名)  
**事業所** 本社：東京  
 支店：関東第一、関東第二、名古屋、  
 京滋北陸、関西、中四国、福岡  
 営業所：札幌、仙台  
 工場：富山  
 研究所：富山研究開発センター

**海外グループ会社** OLIC (Thailand) Limited  
<http://www.olic-thailand.com/>

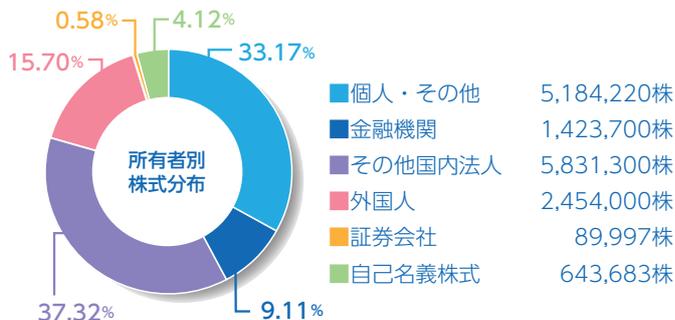
**役員**  
 (2015年3月31日現在)  
 代表取締役 社長執行役員 今井 博文  
 取締役 執行役員 上出 豊幸  
 取締役 執行役員 三橋 厚弥  
 取締役 執行役員 平山 健  
 取締役 執行役員 小澤 雅之  
 取締役 執行役員 宇佐見 卓也  
 取締役 執行役員 山崎 由実子  
 取締役 執行役員 井上 誠一  
 取締役 執行役員 武政 栄治  
 取締役(社外) 小沢 伊弘  
 取締役(社外) 内田 正行  
 取締役(社外) 田中 秀一  
 常勤監査役 徳永 賢一  
 監査役(社外) 三村 藤明  
 監査役(社外) 佐藤 明

## 株式の状況 | 2015年3月31日現在 |

**発行可能株式総数** 28,220,000株  
**発行済株式総数** 15,626,900株  
**株主数** 3,091名  
**大株主**

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三井物産株式会社	3,437,500	22.00
有限会社F J P	2,156,100	13.80
今井 博文	2,025,000	12.96
新井 規子	620,000	3.97
BBH FOR HEARTLAND VALUEFUND,INC.	500,000	3.20
今井 道子	423,000	2.71
RBC IST 15 PCT NON LENDING ACCOUNT	385,300	2.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	328,600	2.10
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	295,300	1.89
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	274,800	1.76

(注) 当社は、自己株式643千株(発行済株式総数の4.12%)を所有しておりますが、上記大株主から除外しております。



## 株主メモ |

**事業年度** 毎年10月1日から翌年9月30日まで  
**定時株主総会** 毎年12月開催  
**基準日** 定時株主総会 毎年9月30日  
 期末配当金 毎年9月30日  
 中間配当金 毎年3月31日  
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日  
**公告方法** 電子公告(当社ホームページに掲載)  
<https://www.fujipharma.jp/ir/other/announce.html>  
 ただし、事故その他やむを得ない事由がある場合には、日本経済新聞に掲載します。  
**株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
**株主名簿管理人事務取扱場所** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話照会先) ☎ 0120-782-031  
 (インターネットホームページ URL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>  
**上場証券取引所** 株式会社東京証券取引所 市場第一部

### ●第51期中間配当金のお支払いについて

第51期中間配当金は、同封の「第51期中間配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間内(2015年6月1日から2015年7月1日まで)にお受け取りください。なお、銀行預金口座への振込をご指定の方には、「配当金計算書」及び「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定の方には「配当金計算書」及び「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしますので、ご確認くださいませようお願い申し上げます(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

### ●上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正(2008年4月30日法律第23号)により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております(同封の「配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができません(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。



富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

### ■お問い合わせ

本社/管理部 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F

TEL : 03-3556-3344 FAX : 03-3556-4455

URL : <http://www.fujipharma.jp/>

